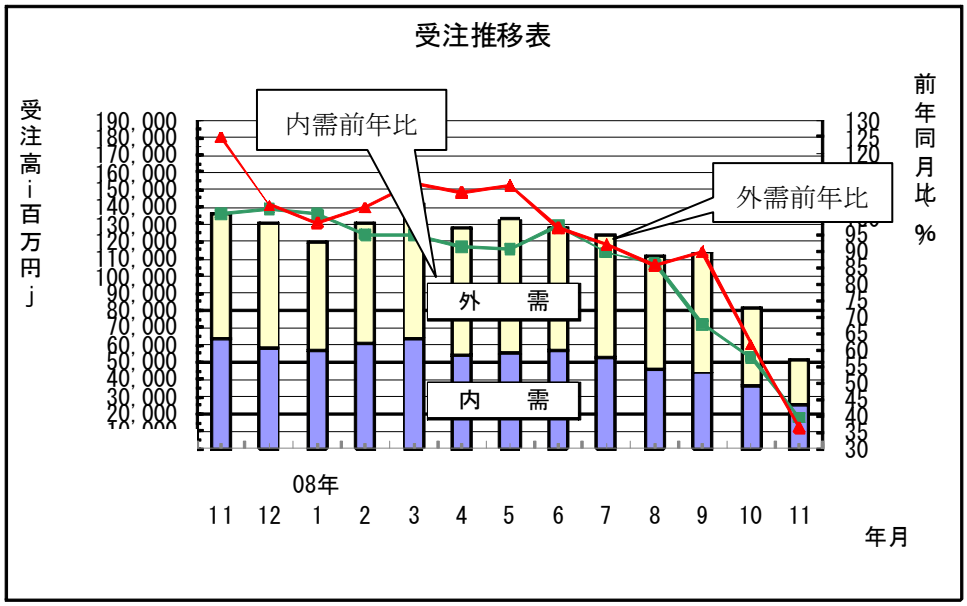
2008 年工作機械推移と 2009 年動向

機械工業会は、年初、2008 年の工作機械受注を 1 兆 5 千億円台と予測したが、アメリカのサブプライムローンの破綻、リーマンブラザースの倒産といった金融不安に端を発した不況の津波が一気に世界中を押し包み、日本国内においても製造業はもとより、それ以外の産業にまで深刻な打撃を与えつつあり、工作機械販売でも図 1 で読み取れる様に 8 月から市場が低迷しはじめ、市場が大幅に悪化し短期間でダメージを受けることになる。
合わせて、発注のキャンセル、納期延長とした報告も多数聞かれている。

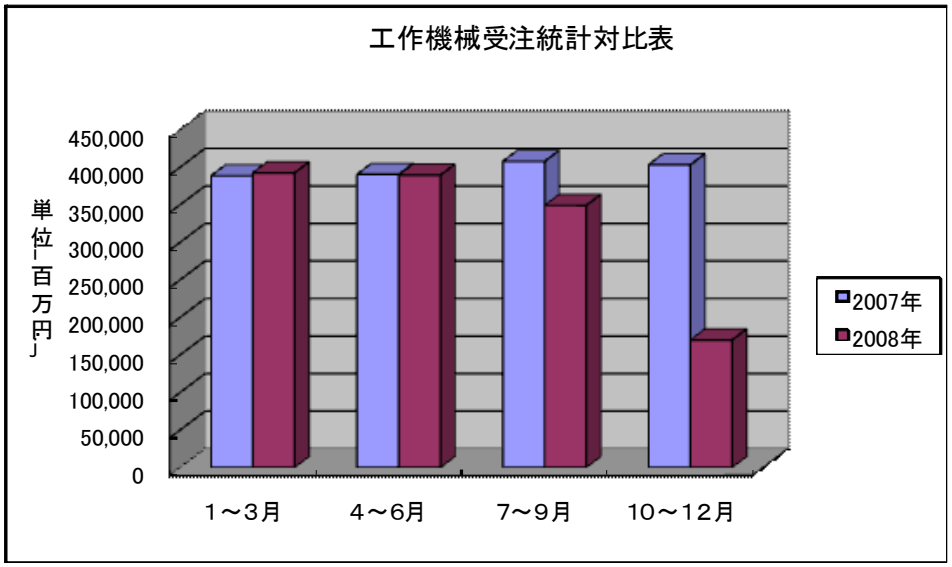
1～10 月の累計受注額は 1 兆 2 千億円台で前年同期比 8.3%減。10 月以降の動きからみて残り 3 千億円は厳しい状況である。暦年ベースでは 1 兆 3 千億円台にとどまる予測ではあるが、史上 3～4 番目の高水準である。だだ、これは前半の貯金を反映した水準で、1～6 月期は前年同期を 0.4%上回るが、7～10 月累計は同△20.8%と大きく減少しており、更なる減少が予想されている。

（図 1）



10 月単月でみても、前月比 28.2%減、前年同月比 40%減と 40%台のマイナスは 2002 年以来 6 年ぶりの水準となる。11 月の受注額は 517 億円で、前年同月比で 62.1%となり、図 2 でわかる様に 10～12 月 4 半期では、前年比で 42.1%と大幅なマイナス傾向にある。2009 年は、3 月までは手持ち受注でこらえられる状況ではあるが、その後は全く不透明で回復までには、今後 2 年間を要するのではとの観測が支配的である。

（図 2）



小型工作機械も一般機械同様、出荷額は過去 4 番目の高水準であるが、後半は受注残を消化しているとみられ、急速な冷え込みが懸念されている。但し、小型工作機は、自動車依存度が高い一般工作機械と異なり、光学機械・時計・電子部品など、IT 関連や精密部品加工など幅広い需要分野を持つために、大幅な落ち込みがなく、今後の関連需要分野の活性化に期待される。